

独立系PACSメーカーの成功の秘密は日本HPワークステーションにあった!?

日本ポラデジタル社製 DICOMビューワー Extage J-ViewがAI読影支援に対応

ワークステーションは日々の読影を陰で支える縁の下の力持ちである。現在多くの読影ソフトウェアベンダーで使われているHPワークステーションに関するBtoB事例を紹介する。今回は、DICOM画像ビューワー Extage J-ViewをHPワークステーションと組み合わせて販売している日本ポラデジタル株式会社様に、現場における協業の実相を伺った。



日本ポラデジタル株式会社代表取締役社長
元山忠則 氏



**日本ポラデジタル
株式会社**
本社:〒113-0034
東京都文京区湯島
2-16-10 MASSビル
大阪営業所:〒530-0047
大阪府大阪市北区西天満
3-2-9 翁ビル4F
URL:<https://www.poladigital.co.jp/>
設立:2000年2月
主要取扱製品:画像診断システム、DICOM ゲートウェイ、健診ソリューション、Canvas、DeltaGraph、Affinity

Q1

日本ポラデジタル様にお伺いします。
業務内容と現在の状況をお聞かせください。

A1

弊社は20年近く前から医療業界に参入しています。もともと米国ポラロイドコーポレーションの日本法人である日本ポラロイドの電子映像事業からスピンアウトした会社です。現在はハードウェア込みで医療画像の読影ソフトウェアを販売し、そのお客様に保守サービスを行うというビジネス形態をとっています。お客様は主に開業医の先生方です。独立系PACSメーカーが少なくなっている今、そこが自慢でもあり、我々の信頼の証でもあるかなと考えております。

Q2

御社の製品について
ご紹介下さい。

A2

これまで販売してきたのは直感的でシンプルな操作性でご好評頂いているDICOM画像ビューワー Extage J-Viewです。今回そのExtage J-Viewで、10月から新たにオプションとしてAI読

影支援機能を利用できるようになりました。

Q3

新オプションの
AI読影支援機能について、
メリットを教えて下さい。

A3

専門医の読影スキルを学習したAIが病変の見落とし防止を支援します。たとえば肺がんが疑われる所見である結節影や、肺炎や結核など感染症の所見である浸潤影、これらの見落とし防止をお手伝いします。忙しい日常診療のなか、読影にかける時間を短縮させ、専門外診断の不安や一人で読影を行う心理的負担を軽減させるなど、開業医を強力にサポートします。

Q4

HPワークステーションの
導入経緯を教えて下さい。

A4

我々はアプリケーションソフトウェアを提供するベンダーですが、ハードソフトウェアの中にソフトウェアを組み込んでお客様に提案しています。以前はハードウェアも自前で対応していましたが、それでは工数がかかりすぎて

しまう。販売台数が増えると保守やサービスの人間を増やさなければならず、お客様のフォローアップにまで手が回りません。自然に、汎用のハードウェアを購入してそこにソフトウェアを組み込む、という現在の形になりました。

Q5

HP導入のメリットはどのように感じておられますか。

A5

第一にハードウェアの堅牢性ですね。壊れにくいんです。お客様は毎日患者さんを前にまつたなしの医師たちですから、故障は致命的です。また故障時にはオンラインで現地に出向く必要がありますから故障が多いと対応する時間と経費が増えてしまいます。壊れにくいというのは地味ではありますが、医療に使う製品として非常に大きなメリットなのです。ちなみに筐体の内部を見てみると、部品を詰め込み過ぎず放熱を考慮した設計になっているようです。熱問題への対応が壊れにくい理由なのかもしれませんね。ファンの騒音が低いことも静かな診察室を望む先生方からご好評を頂いています。